

# 第1回気候変動適応中部広域協議会 取組紹介

## 愛知県の気候変動適応策

平成31年1月30日

愛知県環境部地球温暖化対策課

### 愛知県の適応策の位置付け

- あいち地球温暖化防止戦略2030において、緩和策とともに既に実施されている気候変動適応に資する取組（適応策）を整理し、推進体制を提示

#### あいち地球温暖化防止戦略2030

- ・ 温対法に基づく地方公共団体実行計画（区域施策編）
- ・ 「パリ協定」採択などの国内外の社会情勢等の変化を踏まえ、平成30年（2018年）2月に策定
- ・ 計画期間：2030年度



# 気候変動適応法を踏まえての動き 愛知県地球温暖化対策推進条例の制定

地球温暖化対策に関する**県、事業者、県民の責務を明確にし、全ての主体の自主的かつ積極的な取組を促す新たな条例**を制定

## 施行日

平成30年10月19日

ただし、地球温暖化対策計画書制度に係る部分は平成31年4月1日

## 主な内容

- 各主体（県、事業者、県民）の責務
- 知事が定める計画
  - 地球温暖化対策の推進に関する計画
  - 気候変動への適応に関する計画
- 取組に関する事項
  - 事業活動における地球温暖化対策
  - 日常生活における地球温暖化対策
  - その他の地球温暖化対策（**適応策の推進等**）

条文掲載：<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/ondanka/ontaizyourei.html>

3

## 本県における気候の状況（戦略2030に記載）

出典：気候変化レポート2015 — 関東甲信・北陸・東海地方 —（気象庁東京管区气象台）

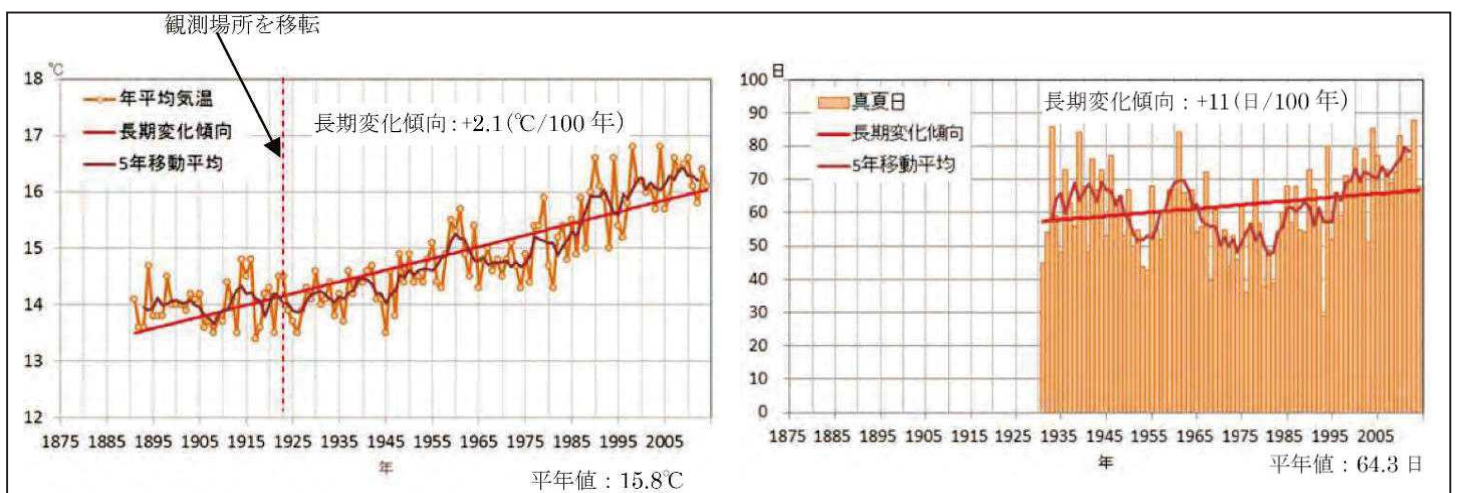


図 名古屋地方気象台の年平均気温の経年変化（左）と真夏日日数の経年変化（右）

- ▶ 名古屋地方気象台で観測された年平均気温の経年変化は上昇傾向。100年あたりに換算すると、2.1°C上昇
- ▶ 真夏日も増加傾向。100年あたりに換算すると、11日増加

4

# 気候変動適応に資する取組（適応策）

あいち地球温暖化防止戦略2030において、政府適応計画を基に、適応策の取組を5項目に整理

項目	取組例
【農業・林業・水産業】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高温耐性品種の導入</li> <li>・施設園芸での高温対策技術導入</li> <li>・排水機場や排水路等の整備 等</li> </ul>
【水環境・水資源】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・河川・湖沼・海域のモニタリングの実施</li> <li>・下水処理水・貯留雨水の利用促進 等</li> </ul>
【自然生態系】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域固有の生態系や希少種の分布の変化を的確に把握するためのモニタリングの実施 等</li> </ul>
【自然災害・沿岸域】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・河川における被害の軽減</li> <li>・土砂災害危険箇所の施設整備 等</li> </ul>
【健康】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェブページでの熱中症の注意喚起、救急搬送状況の掲載 等</li> </ul>

## 適応策紹介① 高温耐性品種（稲）の導入 ～なつきらりの品種開発～ 農林水産部

### 開発の背景

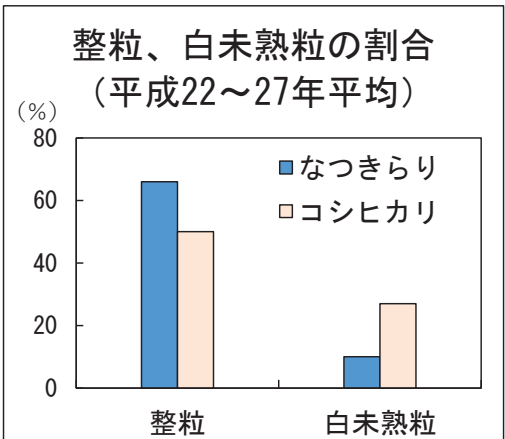
- ▶ 夏期の高温により、コシヒカリに白未熟粒が発生→一等米比率の低下  
全国平均約80% 愛知県43%  
(平成20～24年平均)
- ▶ 農家の所得減少  
ひいては愛知県産米の評価の低下

稲は、出穂後20日間の平均気温が27℃を超えると、白未熟粒の発生率が急激に増加

夏期が高温であっても品質の良い米を安定して生産できる品種が必要

### 品種開発

- ▶ 高温に強い品種に、コシヒカリを交配し、高温耐性品種を選抜育成（平成16年～）  
→なつきらりの開発
- なつきらりの特徴**
- ・コシヒカリに比べ、白未熟粒の発生率が低い（右図参照）
  - ・味、粘りなどはコシヒカリと同等



出典：愛知県農業総合試験場研究報告第47号

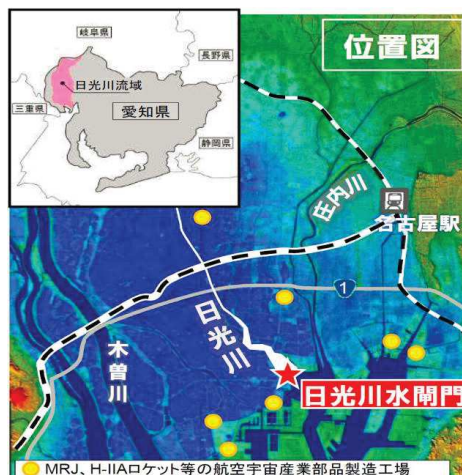
# 適応策紹介② 河川流域での被害軽減 ～日光川水閘門改修事業～

建設部

## 事業の背景

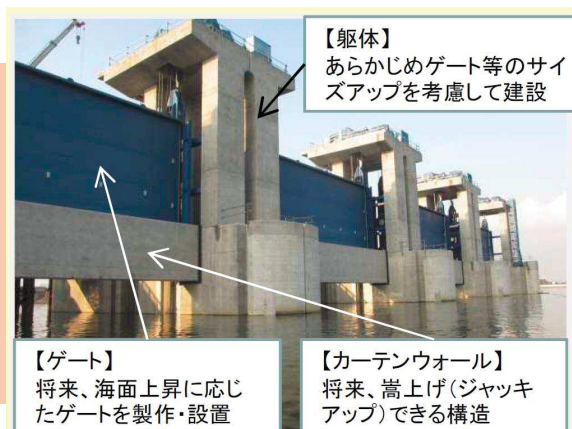
- ▶ 流域の海拔0メートル地帯を高潮・津波から守る防災の要
- ▶ 老朽化による機能低下

長期的に利用可能な施設に改修する必要性



## 改修事業の内容 (平成19年度～平成29年度)

- ▶ 大規模地震への備えとした構造に加え、**将来の地球温暖化による海面上昇を考慮した構造を採用**
- ▶ 海面上昇の予測の不確実性も考慮  
→ **ある程度の幅の海面上昇に対応できる構造 (右図参照)**



## 適応策の推進

### ○ 適応策の推進

将来予測される気候変動の影響に中長期的に適応するため、推進体制を整備しつつ、関係部局と連携しながら、総合的かつ計画的に推進

#### 適応策の推進方針

- ①現在の気候変動の状況とその影響の整理
- ②将来の気候変動とその影響の予測の整理
- ③適応策の体系化
- ④科学的知見の収集と情報共有

#### 推進体制

県地球温暖化対策推進庁内会議  
国・市町村関係会議 等

#### 計画の進行管理

戦略2030フォローアップ会議で、進捗状況の点検・評価や施策の見直し・改善の実施

### ○ 普及啓発

環境イベント・講座・啓発資材等による普及啓発を実施